

マイクロサテライト不安定性検査・ ミスマッチ修復タンパク質の免疫染色検査について ver.1

1. 検査の目的

「ミスマッチ修復異常」は一部のがんで見られる特性です。この特性を持つがんは免疫チェックポイント阻害剤が有効である可能性が高いことが知られています。また、大腸がんではミスマッチ修復異常がある場合、ステージⅡ・Ⅲの患者さんでは再発のリスクが低いことなどが示されています。ミスマッチ修復異常の頻度はがんの種類によって異なり、例えば大腸がんでは6-7%、子宮内膜がんでは20-30%程度です。

マイクロサテライト不安定性検査・ミスマッチ修復タンパク質の免疫染色検査は、どちらもがんのミスマッチ修復異常の有無を調べるための検査で、その結果によりがんの性質を考慮した治療を行うことを目的としています。がんの治療は最新の診療ガイドラインなどを基に行われますが、この検査の結果も治療選択の参考の一つになります。

2. ミスマッチ修復異常とリンチ症候群

ミスマッチ修復異常のあるがんの一部は、リンチ症候群に伴う遺伝性のがんであることが知られています。したがって、ミスマッチ修復異常陽性のがんと判定された場合、リンチ症候群の可能性を考える必要があるかもしれません。今回の検査結果などからリンチ症候群の可能性が考えられる場合は、この症候群や診断に必要な検査などについて、改めて詳しく説明をさせていただきます。

3. リンチ症候群について

リンチ症候群は大腸・子宮・卵巣などにがんができやすくなる遺伝性腫瘍のひとつで、その頻度は日本人全体では600人に1人、大腸がん患者100人に1人程度と考えられています。リンチ症候群と診断された場合、適切な検診を行うことでがんの早期発見につなげることができます。また、親子・兄弟では1/2の確率で遺伝しますが、まだがんにかかっていない方がリンチ症候群と診断された場合も、検診による早期発見が期待されます。

2022.1.6

検査やリンチ症候群についてより詳しく知りたい場合は主治医までご相談ください